

令和5年度第3回南会津町地域公共交通会議 会議録

I. 日時 令和5年10月5日(木) 午後1時30分から午後2時20分

II. 場所 南会津町役場 本庁舎3階 正庁

III. 次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 協議

(1) 南会津町地域公共交通計画策定調査業務進捗状況について

- ・進捗状況報告と今後の予定【資料1】
- ・各種調査結果報告【資料2-1~6】
- ・想定される公共交通を取り巻く課題(案)【資料3】

(2) 南会津町地域公共交通計画の構成案について

- ・南会津町地域公共交通計画の構成イメージ【資料4】

(3) その他

- 4 閉会

IV. 出席者(委員18人中12人出席)

区分	団体・機関等	職名	氏名	出欠
(1)町長が指名する役職員	南会津町	副町長	佐藤 一範	出
(2)一般旅客自動車運送事業者の代表	一般乗合代表 会津乗合自動車株式会社	バス・タクシー事業部 輸送管理課長	小澤 睦	出
	一般乗用代表 南会津町事業者代表 田島タクシー有限会社	代表取締役	馬場 丈晴	出
	一般貸切代表 会津交通株式会社	代表取締役	吉田 正寿	代理 星 隆
(3)一般旅客自動車運送事業者の組織する団体の代表	一般乗合自動車運送事業者の組織する団体の代表 公益社団法人福島県バス協会	専務理事	宍戸 紳一郎	欠
	一般乗用旅客自動車運送事業者の組織する団体の代表 社団法人福島県タクシー協会会津支部	支部長	佐藤 俊材	欠
(4)住民又は利用者の代表	高齢者代表	田島地区老人クラブ連絡協議会長	高橋 紀	出
	婦人代表	舘岩商工会女性部長	芳賀 久美	欠
	青年代表	南郷青年会事務局長	五十嵐 太介	欠
	児童生徒保護者代表	田島小学校PTA会長	高倉 由雅	代理 酒井来武
(5)東北運輸局長若しくは福島運輸支局長又はその指名する者	国土交通省東北運輸局 福島運輸支局	首席運輸企画専門官	佐々木 由隆	出

(6)一般旅客自動車運送事業者の事業用自動車の運転者が組織する団体の代表	一般乗合旅客自動車運送事業者に係る団体の代表 会津乗合自動車株式会社 労働組合	書記長	山田 保道	出
	一般乗用旅客自動車運送事業者に係る団体の代表 福島県ハイヤータクシー労働組合会津支部	組合員	浅井 角栄	欠
(7)道路管理者、福島県警察、学識経験者その他の交通会議が必要と認める者	福島県南会津地方振興局	県民環境部主幹兼副部長 兼県民環境課長	渡邊 啓晃	出
	南会津警察署	地域交通課長	根本 瞬	出
	南会津建設事務所	主幹兼企画管理部長	丸山 泰人	出
	南会津町社会福祉協議会	事務局長	渡部 浩治	欠
	会津鉄道株式会社	駅事業部部長兼会津田島駅駅長	湯田 仁	出

【事務局】南会津町総合政策課長：星良栄 地域振興係長：舟木浩隆 地域振興係主査：室井成美

【受託業者】株式会社ケー・シー・エス 東北支社 技師 伊藤良 （東北支社長オンライン出席）

V. 会議

～進行～

1 開会

(舟木係長)

・それでは皆さん定刻より若干早いですが、皆さんおそろいになりましたので、ただいまより令和5年度第3回南会津町地域公共交通会議を開催させていただきます。会議の司会を務めます総合政策課地域振興係長の舟木です。どうぞよろしくお願いいいたします。なお会議録を作成する都合上、会議での発言は録音させていただいておりますので、あらかじめご了承くださいと思います。質問等で発言する際も、申し訳ないですがマイクを通してもらいますよう、よろしくお願ひします。本日の会議にあたりまして、現在町が計画策定を進めています公共交通計画の調査業務を受託する株式会社KCSよりメインでご担当いただいております、技師の伊藤様にご出席をいただいておりますので、この場をお借りしてご紹介の方させていただきます。よろしくお願ひします。次に、本日の会議につきましては、委員18人中12人が出席しておりますので、規約第6条第2項の規定に基づきまして、会議が成立していることを申し上げさせていただきます。それでは、当会議の会長を務めます、南会津町副町長佐藤一範が挨拶を申し上げます。

2 会長あいさつ

(佐藤一範会長)

・皆さんこんにちは。今ほどご紹介ありました、南会津町副町長の佐藤でございます。本日の会議開催にあたりまして皆様におかれましては、大変お忙しいところ、また遠方よりご出席をいただきましてありがとうございます。併せまして事業者の皆様におかれましては、南会津町地域公共交通計画策定業務に係る調査、ヒアリング等にご協力をいただきましたことに対しましても、この場をお借りしてお礼を申し上げます。本日はまず、この計画策定調査業務の進捗状況といたしまして、調査結果や関係機関へのヒアリングの内容等について報告がございます。その後、調査ヒアリングの結果をもとに、本町の公共交通を取り巻く感、課題についてお示しをいたしまして、委員の皆様と協議を進めて参りたいというふうに考えております。委員の皆様からは、忌憚のないご意見をちょうだいいたしまして、可能な限り

計画に反映させていきたいというふうに考えておりますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。簡単ではございますけれども挨拶とさせていただきます。

3 協議

(1) 南会津町地域公共交通計画策定調査業務進捗状況について

○資料1～3に基づき、事務局（室井）及び株式会社ケー・シー・エス（伊藤）から説明
（説明内容）

資料1（事務局室井）

・(1)の策定の趣旨であります、平成31年3月に南会津町地域公共交通網形成計画を策定し、町内の公共交通の利便性効率性の向上に向けた再編見直しを行ってきたところです。令和2年1月に、網形成計画の法的根拠となる法律が改正されたことにより、地域公共交通の交通計画の策定が努力義務化されました。加えて、網形成計画の計画策定期間が令和7年度で最終年度になること、様々な社会情勢の変化により、町の公共交通を取り巻く環境も大きく変わってきていることも踏まえ、町の今後の公共交通のあり方を明確にすることを目的として、新たなマスタープランとなる南会津町地域公共交通計画の策定に向けた検討を進めているところであります。次に(2)の検討にあたって実施する調査等ではありますが、表にあります項目すべて7月から9月の間に実施済みであります。今回の会議では、これらの調査結果について、後程株式会社ケー・シー・エスさんの方から詳しく説明をしていただくことになっております。続いて(3)の計画策定に向けたフローについてですが、記載の図の通りですので、説明は省略させていただきます。続きまして、(4)の公共交通会議の開催スケジュールについてですが、計画策定に係る会議開催について記載してあります。6月の会議の際には、計3回を予定していると説明させていただきましたが、県の計画との整合性などを図る必要もあることから、骨子案を本日の会議でお示しすることができなかつたため、次回の12月開催予定時に、お示ししたいと考えております。そのため、素案については令和6年の1月の会議開催時にお示しいたします。

資料2-1～6及び資料3（株式会社ケー・シー・エス伊藤）

・まず初めに、今回資料2-1から資料3までかなり膨大な資料になっております。これを一つ一つ説明すると説明時間だけですごい時間になってしまいますので、今回、当日配付という形で大変申し訳ございませんでしたが、それらを取りまとめた課題という形で資料3の方をお渡しさせていただいております。そちらを中心にご説明をさせていただければと思っております。

この課題3をまとめる上で、各2-1～6の調査を活用させていただいたので、事前に送付しております2-1～6の資料に関しまして、ご意見ご質問等ある委員の皆様につきましてはこの後の質疑応答の時間でご意見等を賜れば幸いです。

では資料3南会津町の地域公共交通の課題の整理というところですが、案という形で一旦整理をさせていただいたものです。まず資料の構成につきましては資料1ページ目から6ページまでが課題の内容です。資料7ページにつきましては現時点での課題案に対しての方向性ということで大まかな大枠で3つ記載させていただいている資料のA3の1ページのところになりますが、まず大きな視点として公共交通のネットワークに関する課題というところと、後半の部分につきましては社会情勢等を踏まえた町全体の方の課題という形でグループ分けをさせていただいているところです。1-1にございます公共交通ネットワークに関する課題の部分の最初の課題ですがこちらは中心部に着目した課題ということで挙げさせていただいております。

（課題1）

・課題の1といたしまして会津田島駅周辺に点在する空白地域の解消と利便性向上という内容です。こちらの会津田島駅周辺というものは県立南会津病院をはじめとして、様々な商業施設、行政施設等が集積する町の中心部であるということとともに、それぞれの伊南・南郷・館岩との地域間の往来であったり、会津田島駅周辺の施設を回遊するというような動き流動が、町民アンケートの結果から

ある程度判明しているといったところです。これに対して、地域間の往来確保する移動手段としての田島・山口・内川線であったりとか、各地域のデマンド交通であったり、こういったサービスを提供し、町民の利便性向上というものを網形成計画策定後に順次図ってきた状況です。しかし下の図にございますように、公共交通の緑の線が路線バスの運行の本数を示している線で、灰色の点線の丸がバス停から300mのカバー圏域を指しているものです。その周辺にあります青やオレンジ赤というのは人口の分布を示しており、赤色になっていけばなっていくほど、人口が集中しているというような状況を指し示している図ですが、こちらを見ると後原地区や中町地区、本町地区などの会津田島駅の下の方に灰色の枠から外れているけれども、赤色で人口が集しているエリアについては公共交通のバス停までが遠いといったようなところから、移動の制約を受けている状況というものも懸念されるところです。またこちらにつきましてはデマンドタクシーにおいて、まちなかの施設間の移動もできないということから、中心部にお住まいになられている方々が、いろいろな制約を受けているといったようなところが懸念されます。また右上の図にございますように、こちらはデマンドタクシーの各便別の利用者数、1便当たりの利用者数というものを算出させていただいたものです。例えば、長野地域や、桧沢地域といったところで見させていただきますと、まちなか行きの長野地域1便が10時、2便が13時半というように運行間隔に開きがあるといったような状況から、利用しづらいような状況、例えば買い物で行って帰ってくる、通院で行って帰ってくるというところで、長時間滞在していなければならないといったようなところから、利用が低迷している時間帯というところも、実数としては見られるといったところで、町民目線で考えると使いづらい状況ということも考えられるところです。つきましては公共交通空白地域の解消であったりとか、会津田島駅周辺の回遊性向上であるとか、既存のサービスであるデマンドタクシーの利便性向上に向けて、使いづらいエリアに対する移動手段の確保であったり、運行内容の見直しに対する対策が必要であるといったような内容を記載させていただいているところです。

(課題2)

・こちらは郊外部の公共交通ネットワークに関する内容で特に南郷地域に特化した課題を記載させていただいて、伊南・南郷地域の公共交通ネットワークの見直しといった内容です。伊南・南郷地域におきましては下の図にございますように、少し見づらくて申し訳ないのですが、青色であったり薄水色の点線というところで、人口が少ない色を指し示しておりますが、低密度の人口が、道路の沿線上に基本的に分散しているといったような状況です。また伊南・南郷地域におきましては中心部と比べて施設が少ないといったところから、町民アンケートの結果にもよりますように、会津田島駅を中心部への移動というところが、常日頃発生しており、これらのアクセス手段の確保維持ということが求められているところです。これに対しまして、路線バスの田島・内川・山口線であったりとか、南郷地域乗り合いタクシー、さらには高校生の通学の移動を支えるというところで、県立南会津高校スクールバスが運行しているといったような形でサービスを提供しております。しかし近年、南会津高校と田島高校の統合により中心部から南郷地域に移動していた通学の移動というところが、変わってしまったり減少してしまったというところと、全体的な人口減少の進展に伴う人口密度の低下というところによって、利用者数の減少というものは自然現象的に続いているといったところで、田島・山口・内川線の運行実績については令和4年度のを記載させていただいております。国の補助事業を受けて運行している路線であります。補助要件の輸送量が15というのが通常の要件ですが、それを下回っている輸送量になっている状況です。現時点では国の要件緩和の適用等を受けており、国からの補助をもらっているというような状況ですが、こちらの要件が通常の要件に戻った時に輸送量15を満たさないという状況であると、国からの補助がなくなってしまう町のさらなる財政負担の増加が懸念されます。それに伴い、路線の維持が困難になってくる可能性が高いといったような状況にあります。また、南郷地域乗合タクシーについては、運行の経路上で申し上げますと、下の図にあるように、伊南地域まで延伸できるような状況でもないことから、伊南地域が移動移動手段として使えるのは路線バスしかないといった状況であります。先ほどの課題1のアンケートの結果には少しありましたが、路線バスの乗り換えに伴う待ち時間に対する不便さというものが発生しているといったようなところであったり、供給体制としても見ると、

車両台数に限りがあったり、人員に限りがあるといった中で、伊南・南郷地域全体広域をカバーすることがなかなか難しいといったようなところで利便性と、持続性というところに問題を抱えているといったようなところ。県立南会津高校スクールバスにおいても、この統合による通学需要の変化減少に伴いまして、こちらなかなか確保維持をしていくことが難しいといったような状況です。以上を踏まえると、伊南・南郷地域におきましては、田島地域への移動というところの確保維持が必要とながらも、現時点で提供しているサービスの部分におきまして、今後維持という観点で、なかなか難しいという状況です。しかしながら、住み慣れた地域で暮らし続けていくためには、こういったアクセス手段の確保ということは、必須というところですので、人口の集積や移動ニーズ及び経営支援に配慮した公共交通ネットワーク自体の見直しというところが必要ではないかというふうな記載をさせていただいております。

(課題3)

・3つ目の広域の公共交通ネットワークにつきまして、課題3として近隣市町村との移動手段の確保というところ。下の図は国勢調査による流動の図面です。通勤の場合の流動を示しておりますが、赤色の線ですとか、黄色や緑、青といったような形で赤に近づいて行くほど、移動の数が増えているといったような状況です。基本的に町内に住んでいる人が、町内の就業先に移動しているといった形で277人移動しているものの、町外に跨ぐ、例えば会津若松市には104人といったような形で、町外に跨ぐ移動というところも見られまして、こういったところで広域のサービスを提供している田島・桧枝岐線であったり会津鉄道、野岩鉄道等のサービスが提供しているといったような状況です。しかしながら、こちらに関しましては右下に少し書かせていただいている田島・桧枝岐線の輸送実績を見てみますと、同じように輸送量が15に対して輸送量7といったような状態で田島・山口・内川線同様の維持の困難さであったりとか、利用者数も減少しているというところで、また、会津鉄道におきましては同じく、徐々にではございますが利用者正確減少しているというところも見受けられます。また、館岩地域のデマンドタクシーを例に挙げると、地域内フィーダー系統という補助を受けている関係上もございまして、このように幹線である鉄道であったり路線バスの維持が難しくなってくると、必然的に町内の公共交通のところの維持にも影響をおよぼしてくるといったような密接な関係性があるというところ。以上を踏まえると、町外の移動手段というところにつきましては、町民のみならず、観光客やビジネス客にとっても重要な役割を果たしているネットワークであることから、将来的にも広域的な公共交通ネットワークの確保維持を図っていくために、現在計画を策定している県であるとか、近隣の自治体との連携を図っていくことが重要ではないかという課題を記載させていただいております。

(課題4)

・4つ目の、町外町内の円滑な移動環境の維持と接続性の向上というところですが、こちらに関しましては図にあるように、会津田島駅で鉄道の改札口を対象に鉄道乗る人と降りる人を時間体別に10分刻みで、特性別にグラフ化として整理させていただいたところ。こちら見ていただきますと、6時10分あたりのところに青い線で高校生61人が鉄道を利用するといったような状況ですし、後半の17時以降につきましても高校生という青い枠線が、降りるという形で多数鉄道を利用されているといったようなところ。しかしながら、田島・山口・内川線の運行時間外の利用というところが多いため、普段は駅周辺での送迎による車の渋滞が発生しています。鉄道と路線バスであったり、鉄道とデマンドタクシーであったりの接続の時間に問題を抱えていることがわかります。現在、路線バスやデマンドタクシーが会津田島駅に直接乗り入れるなど、空間的な接続は確保しているというものの、時間体的な接続というところにおいては、見直しが必要ではないかというふうな記載をさせていただいております。

(課題5)

・4ページの1-1-4にございます、公共交通以外の移動サービスでは、本町において、例えば只見町で運行している自然首都只見号であったりとか、昭和村が運行する昭和村南会津町生活バスは南会津町の町民の皆さんも利用できるといったような柔軟な運行内容により、買い物客を含む町民の移動を支えているといったようなところ。こちらのサービスにつきましては公共交通で対応できない

い移動のニーズに対して、きめ細かく対応しているという側面もありますので、今後この公共交通と公共交通以外のサービス、移手段のバランスというのを考慮していきながら、連携した関係というのを構築していくことが必要ではないかという内容です。

(課題6)

・1-1-5につきましては待合環境、利用環境に関する内容で課題を2つ挙げさせていただいております。課題6につきましては公共交通を安全安心して利用できる待合環境の確保という内容です。会津田島駅と会津高原尾瀬口駅を網形成計画の中で拠点として位置付けて、その上でバスやデマンドタクシー等を取り入れるような環境ということで、ネットワークを整備しているところです。待合所の他に、売店飲食スペース駅前広場における上屋やベンチ設置といったところで、快適な待合環境が整備されているといったようなところです。しかしながら、町内の他のバス停というところを目を向けますと、経済的な理由や、人力的なところも考慮いたしまして、十分に待合環境のすべてを上屋やベンチが設置できているとは言いがたい状況であるというところです。しかしながら、整備できるマンパワーなどの側面もございますので、新たに設置していくというよりは、特に利用が見られるバス停については、そういった待合環境を向上していくというような視点もあるでしょうし、周辺の施設とのスペースを活用して待合環境として整備していくような形で、少しでも待合環境の向上ということを図っていくことが必要ではないかという内容です。

(課題7)

・課題7については、運行内容の情報発信の強化です。皆さんもご承知おきの通り、近年スマートフォンの普及により、オンラインを活用した情報発信のニーズが高まりつつある中、会津バスさんにおかれましては、GTF Sといったような形でオープンデータとして公開し、グーグルであったりとか、ヤフーなどの乗り換え検索などをはじめとしたコンテンツに、路線バスの運行状況ですとか、鉄道との乗り換え時間の表示などを整備しており、デジタルの情報を発信しているといった状況です。しかし、町民アンケートの結果をみますと、下のクロス集計の表にありますように、左から2つ目、いつ運行してるのかわからないといったような方々が、それぞれホームページやチラシ、知人等から教えてもらう方々につきましても、いつ運行してるのかわからないといった回答が多いというようなところで、なかなか情報が浸透していないといったような実情がこのアンケートのところから見てとれました。運行状況に対しては、ホームページの情報発信もしているほか、例えばLINE等を活用したり、リアルタイムで情報発信していくような整備も必要ではないかと思えます。一方で、家族友人などから教えてもらうといったような形でアナログ的に、情報収集しているという方々もいらっしゃるもので、これらの方々に関しましてはこれまでの広報誌等による周知のほか、説明会などの開催によるこまめな情報発信というところもあわせて、周知していく必要があるのかなといったところです。

(課題8)

・課題8の内容につきましては公共交通事業全体の持続性の内容です。上の図にございますのは町の公共交通に係る財政負担の推移を示しているところです。2019年と2022年を比較させていただきますと、若干4.6%程度減少しているものの、その内訳に関しましては、デマンドタクシー・乗合タクシーの財政負担に大きく転換シフトされているというような状況です。今後も人口減少が続くと予想される中で、現状での主な移手段として挙げられる、自動車及び送迎といったところが中心の移動で、自動車からの転換がなければ、公共交通の利用者は増加しない見込みであるため、運行内容の見直しだけではなく、町民の公共交通に対する意識を高めていく機会の醸成というところも必要ではないかというようなところです。

(課題9)

・課題9の人材不足の解消につきましては、ヒアリング調査でさせていただいたところですが、全国的にドライバー不足というところが深刻化している中、南会津町においても同様のところです。特にデマンドタクシーを運行していただいている事業者さんにおきましては、デマンドタクシーの他に、スクールバスやその他の委託事業等も合わせて兼務でされているところで、現時点の運行を維持するというところも、今後難しくなってくるというような内容も聞かせていただいたところです。こうしたところに対し、タクシー事業者だけではなく、バス事業者さんも同じような状況下にあるというところ

ろですが、現行の体制を維持継続していくためにも、次の新たな担い手の確保や人材不足の解消に向けた対策も講じていく必要があるという内容です。

(課題10)

・5ページのところにつきましては全体の視点というところで入れさせていただいているところです。課題10につきましては、安全安心な生活を支えていく公共交通体系の構築では、高齢化率が高まってくるという中で、町民アンケートのように赤枠で囲まさせていただいておりますが、年齢が高まり、運転に不安を感じる人が増えてくるといったような方々が、年齢が上がってくるとその割合が高まってきたりと、どの地域でも同じような傾向です。特に伊南・南郷地域においては、他の地域と比べると若干上回っているというような状況ですので、こういったところを考えますと高齢者が自家用車に過度に依存することなく、移動できるような移動手段の確保や移動支援の強化といったところが必要ではないかというところです。

(課題11)

・課題11に関しましては、先ほどの接続のところ少し申し上げさせていただきましたように、高校生の皆様が家族の送迎で移動している割合が非常に多いという結果が、高校生アンケートの結果から見てとれました。なぜ公共交通を利用しないのかというところでは「送迎してもらえるから」といったようなところですが、一方親御さんを対象に聞いてみますと、「部活等の時間と公共交通の時間が合わないから仕方なくやっている」というような実態で約7割以上の方々が実は送迎に対して負担を感じていらっしゃるというところなんです。こういった結果をかんがみますと、やはり安心して子育てできるような生活環境の確保というところに向けて、送迎負担を軽減するための公共交通の構築ということが求められているところかというところです。

(課題12)

・続いて6ページになりますが観光振興を促すアクセス手段の確保というところで、町内における観光の入り込み客数の推移と、町内にある拠点別の観光入り込み客数の推移というところです。新型コロナウイルス等の影響により、観光のリユース、入り込み客数は減少傾向にございますが、5類に移行したことに伴いまして今後回復が期待されているといったようなところなんです。それに対して、現在路線バス、デマンドタクシーの公共交通サービスの他、観光分野においてもフリータクシープランといったような形で様々なサービスを提供しているといったようなところなんです。特に観光につきましては町の方も力を入れている産業というところで、観光振興を促していくために公共交通分野の方でも、観光の分野と連携していきながらアクセス手段として確保していくということが引き続き必要ではないかという内容です。

(課題13)

・課題13につきましては脱炭素社会に向けた公共交通の見直しということで、温室効果ガスの排出削減を目標にするというところで町でも掲げられており、公共交通分野でも対策が求められておるところです。公共交通分野におきましては、環境に配慮した自動運転の実証運行であったり電気バス水素バスといったような次世代型のモビリティ、これが全国的に浸透しているほか、マイカーの依存軽減に向けたモビリティマネジメントと呼ばれるような取り組みが首都圏を中心に広がっているところなんです。会津バスさんが運行する尾瀬沼行の便につきましても一部電気バス等々を導入していただいています。こうしたところで今後も脱炭素社会に向けてこういった取り組みも推進していくということが必要ではないかという内容です。

(課題14)

・課題14の新たな技術の活用に向けた検討というところですが、下の図にございますように、先ほど少し申し上げさせていただいた、会津バスさんの方でオープンデータとしてデジタル的な情報発信の内容グーグルマップの内容を一部抜粋させていただいているところです。ヒアリング調査をさせていただいたところ、今後会津バスさんにおいてICカードの導入に力を入れていただくというところの話も聞かせていただきましたので、こういった環境の変化に伴ってさらなる利便性向上が期待されるほか、ICカードが導入されると、より詳細な利用実績というところを把握できますので、こうしたところを活用した路線見直しや、最後の方になりますが、Ma a sといったような形での複数の移

動サービスを検索予約決済まで一括して行うような環境の構築というところに対して、今後検討が必要ではないかという内容を記載させていただいております。

(課題解決の方向性)

・最後に7ページのところになりますが、課題解決の方向性といたしまして、14つの課題に対しての方向性を大きく3つ、整理をさせていただいております。こちらにつきましては、課題を解消するための方向性というところで、やるべき施策や事業ではないのですが、大きく3つとして、まず1つ目がにぎわいの創出や交流を促していくための公共交通の利便性の確保。2つ目が使いやすい利用環境の構築。3つ目が持続性を高める取り組みとして安定的な運営運行体制の構築というところで、大きく3つの方向性が明らかになって参りましたので、このような形で整理をさせていただいたところでは、今挙げさせていただいてるのはあくまでも案の内容ですので、皆様が調査の結果を見られた内容ですとか、ただいまの説明に関して不足してるところ等あれば、ご質問等お願いできればと思えますし、こういった課題もあるのではないかとこのころがればぜひそういったところもご意見賜ればと思っております。

【質疑・意見等】

佐藤会長：今ほど計画の趣旨それから全体のスケジュール等についての説明がありました。それから調査結果、報告結果を踏まえた課題とそれから方向性についての説明をしていただきました。内容についてもう少し詳しく聞きたいですとか確認したい内容等があれば、質問をお受けしたいと思えますが、いかがでしょうか。その他ご意見等でも構いませんが。

では、私の方から質問ですが、今ほど14の課題を上げていただきましたけれどもこの中で、特に重要だったり喫緊の課題というか、本町において特徴的なものがあれば、教えていただきたいのですがいかがでしょうか。

KCS伊藤：あくまでも調査の結果から見た視点でというところで申し上げさせていただきますと、2ページのところにあります課題2の部分であったり、課題3の部分のところでは、やはり町の地域特性といたしまして、伊南・南郷・館岩の方から田島の方に向かっていくという、流動を支えるサービスというところで、現時点で様々なサービスを提供しておりますが、これらの持続性というところが利用状況の低迷等もございますし、経営体制というところでの人手不足や、車両不足などが複雑に絡み合っとなかなか維持が困難になってきているといったような状況が喫緊の課題ではないかというふうを考えているところです。

佐藤会長：はい。ありがとうございます。その他皆様からご質問やご意見等あればお願いしたいんですが、いかがでしょうか。では一旦区切らせていただいて、引き続き構成案について説明質疑を受けた後また最後に、全体を通してご意見や質問等を受け、させていただければと思えますのでよろしくお願いたします。

《協議事項(1)について原案のとおり承認》

(2) 南会津町地域公共交通計画の構成案について

○資料4に基づき、事務局(室井)から説明

(説明内容)

・今回の計画の構成イメージにつきましては、現計画であります網形成計画をベースとして、現計画からの改定となるため、第1章の計画概要については前計画の総括を追加いたします。また、活性化再生法の改正に伴い公共交通計画と補助制度の連動化が求められていることから、第5章に地域公共交通確保維持改善事業の必要性と、第7章に具体的な管理方法を記載いたします。本計画は町の上位計画であります総合振興計画に合わせた形で進めていきたいと思っております。

【質疑・意見等】

会津乗合小澤委員：構成イメージのところの部分で、アンケートの方や今後の考え方というところ

には入っていないんですが、当該地域に関してはいろいろな交通網と、記載してある鉄道、路線バス、デマンドタクシー乗合タクシー、一般タクシーと様々あると思うんですけども、それ以外にも一般的なスクールバス、学校のスクールバスがありますが、今記載されているのが、フィーダー路線でやっている県立南会津高校スクールバスしかなく、いろいろな交通移動媒体があるなか、それをいろいろと組み合わせて、一般生活利用者の方の移動の足にも活用できるような形も検討すべきと思っております、その中で構成イメージの方でスクールバスの方が全くこう入っていないところが検討からすでに除外してあるというふうになっているのかだけ確認したいと思っております。

事務局室井：計画の対象範囲の方には含まれていませんが、第2章の交通の現状のその他の部分の公共交通以外の移動手段を整理するということですか、第5章の基本目標の交通、公共交通ネットワークの将来像などのところにも位置付けていきたいと思っておりますので、全くスクールバス等を考えていないというわけではございませんのでご理解をお願いします。

会津乗合小澤委員：承知しました。

佐藤会長：その他、質問等ございますでしょうか。

福島運輸支局佐々木委員：今回の計画策定にあたって、私の方でちょっと興味深く見させていただいたのが、やはり交通事業者さんのヒアリング、あとは周辺町村のヒアリング一覧というものが出ておりましたが、他の自治体さんで交通計画作中で、こういう形で出てきたものをあまり見たことがありませんでした。会津鉄道さんをはじめとした鉄道事業者さんのご意見とか入っておりますので、ぜひこの辺を鉄道利用の活性化の部分で大事になってくると思いますので、可能な限り取り入れていただければというお願いでございます。住民の方のアンケートとか利用実態については、やはり高齢になっても、車がなかなか手放せないというのが一番の実情なのかなということで、いろいろなデマンド、路線バス、鉄道もありますが、利用がやっぱり少ないということで、実際には80代の方、80歳から84歳ぐらいの方も、車を結構乗ってらっしゃるのかなと思います。その方々がこの5年後の90歳ぐらいになると自分で運転するのも限界になってくるのかなと思うので、やはりこの計画が非常に大事になってくると思います。ですので、公共交通の利用を促進する手段というのを強力に推進していただきたいというふうに思います。実際にこの計画の資料4で一通り落とし込んで、今後の進め方というものが出てくると思うんですけどもこれがマスタープランという位置付けになると思うので、これを全体でまとめて、実際にどういう形で動かしていくのかというものがやっぱり非常に重要になってくると思います。そういった意味では、利便増進実施計画というアクションプランなどの利活用で、周知とかそういった部分、例えばパンフレットの作成などの部分で、国の補助も微々たるものではあるんですけども、活用していただくという方策はございます。必ずしも大臣認定を取る必要はなくても、補助活用できるというのもありますので、ぜひご検討いただければと思います。

事務局室井：今ほどの意見であります。鉄道の部分も取り入れていって欲しいということだったので、もちろん取り入れていきたいと思っております。次に高齢者の支援や周知の方法につきましては、高齢者が集まるサロン等に出向いてデマンドタクシーなどの説明も今も行っておりますのでそちらを引き続き行って周知をして参りたいと思っております。また、国の支援の活用につきましては、利便増進実施計画などは、周辺の自治体さんとの連携などもありますので、引き続き協議し、計画策定も視野に入れながら進めて参りたいと思っております。

《協議事項（2）について原案のとおり承認》

（3）その他

○事務局（室井）より次回の会議開催予定日について説明

・次回の会議の開催予定であります。資料1に記載の通り12月を予定しております。

日程が決まり次第、後日通知させていただきますので、その際はよろしくお願いたします。

4 閉会

(舟木係長)

・最後に、前回発言がしたくても場を設けなかった事務局の勝手際もありましたので、この機会に何かお話ししておきたいというような内容があれば意見を出していただければというふうに思っております。何かございますでしょうか。

何もないようですので、会長におかれましてはスムーズな議事進行本当にありがとうございました。構成員の皆様におかれましては、協議に対して慎重審議いただきまして、誠にありがとうございました。以上をもちまして、令和5年度第3回南会津町地域公共交通会議を終了させていただきます。本日は大変お疲れ様でした。ありがとうございました。

詳しい説明内容等については別添資料のとおりです。

以上